

『百人一首』（平安中期～後期）「恋の歌」学習プリント6

はじめに

前時は平安時代中期から後期の「恋の歌」の中で、40番・41番の歌について詳しく学習しました。本時は、この時代の「恋の歌」を用いて、重要な文法事項について学習しましょう。

課題一（「もがな」の用法） 次の歌について、後の問いに答えなさい。

- 50 君がため惜しからざりし命さへ 長くもがなと思ひけるかな  
54 忘れじの行く末まではかたければ 今日を限りの命ともがな  
56 あらざらむこの世のほかの思ひ出に 今一たびの逢ふこともがな  
63 今はただ思ひ絶えなむとばかりを 人づてならで言ふよしもがな

問一 右の四首には傍線部のように助詞「もがな」が用いられているが、何という種類の助詞か。またその文法的意味は何か。

種類（ ） 文法的意味（ ）

問二 傍線部を口語訳しなさい。

- 50（ ）  
54（ ）  
56（ ）  
63（ ）

課題二（「こそ」の用法） 次の歌について、後の問いに答えなさい。

- 65 恨み詫びほさぬ袖だにあるものを 恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ  
72 音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖のぬれもこそすれ  
\*47 八重葎しげれる宿のさびしきに 人こそ見えね秋は来にけり

（和歌でなければ「人こそ見えね、秋は来にけり」と表記されるところ）

問三 右の三首の「こそ」はいずれも強意の係助詞で、係り結びの法則を作っている。それぞれの結びの語を抜き出し、例にならって文法的に説明しなさい。 \* 動詞「行く」の未然形

- 65（ ） 説明（ ）  
72（ ） 説明（ ）  
47（ ） 説明（ ）

問四 72と47は「こそ」の特殊な用法である。文法書のP111を参考に、それぞれの用法について説明しなさい。

- 72（ ）  
47（ ）  
傍線部を口語訳しなさい。

- 65（ ）  
72（ ）  
47（ ）

課題三（「や」の用法） 次の歌について、後の問いに答えなさい。

- 58 有馬山ゐなのささ原風吹けば いでそよ人を忘れやはする  
86 嘆けとて月やはものを思はする かこち顔なるわが涙かな

問六 右の二首の「や」は係助詞いづれも疑問・反語の係助詞で係り結びの法則を作っている。それぞれの結びの語を抜き出し、例にならって文法的に説明しなさい。 \* 動詞「行く」の未然形

- 58（ ） 説明（ ）  
86（ ） 説明（ ）  
傍線部を口語訳しなさい。

- 58（ ）  
86（ ）

★ 係助詞の「か」「や」と「こそ」の特殊な用法は口語訳に大きく影響するので、よく理解し訳せるようになりましょう。